

報告1 スウェーデン・ストックホルム

聴覚障害者が学ぶ モーゴード国民高等学校

9月16日朝、ストックホルムにあるモーゴード国民高等学校を訪問する。ここは町の中心から地下鉄で13駅目のシャールホルメン地区にある。市内で唯一の知的障害者の特別高校（4年制）や国立の肢体障害者の高校、アパートで暮らす障害者を訪ねたことがある。若者たちの性の悩みの相談を受けている「若者相談センター」もここにあった。移民が多く暮らしているエリアだ。



「モーゴード」は、1992年に、南スウェーデンのスコネ地方のフィンスコーではじまった。97年に国民高等学校となり、2007年にストックホルム校ができた。ボルボで有名なイエテボリはじめ「モーゴード」は全国に4校あるという。

合計119人が学んでいる（教員26人）が、みな聴覚障害のある若者たちだ。ストックホルム校には学生33人。教員は現在3人だという（2人は現在産休中）。教員は「モーゴード」に雇用されている。

国民高等学校（folkhögskola）は、デンマークで生まれた北欧独特の成年教育システムだ。若者たちが集団で学びあいながら育っていく。

デンマークでは100近くあり、寄宿制で、歴史や政治、一般教養、美術やスポーツ、料理、裁縫など学生自身が選択して学んでいる。私たちは、障害のある若者が学ぶ2校と、ジャーナリスト志望者がつどう1校を訪問したことがある。

155校あるというスウェーデンでの国民高等学校の訪問は今回がはじめてだ。



モーゴードではいくつかのコースにわかれて学んでいる。デンマークとは違い寄宿制ではない。利用料は無料だ。



<一般コース＝中卒、高卒の単位のとれていない人が学ぶコース>

- ・18歳以上の10人がいる。
- ・期間は、前の教育で単位が取れない人の単位数による。大学を受験したいが単位が足りない場合はここで学ぶ。学習証明書を発行するので大学に進学できる
- ・奨学金は3年間支給される（返済の必要は無い）。「大学に進学したとき、どんな大学の支援があるのか？」と質問があった。「ノートテイクか手話通訳がつかます（通訳時給は700SEK（1SEK＝12円））」

<専門コース>

- 社会と言語コース（1年コース）＝仕事をしていない人、病気のため休職中の人
- コンピューターコース＝65歳以上の聴覚障害者対象、孫と話ができるように
- その他
- 失業のためハローワークの紹介で来た人たちの就労準備コース
- SMFコース：中学卒業後高校に行きたくなくてフラフラしてる人たち対象の3か月のお試しコース
- 聴覚障害の高校へ通えない人のコース：聴覚障害の高校は中央スウェーデンに1校のみで、寄宿舎はあるが、ストックホルムからは車で3時間かかるため。

「知的障害のある人はここでは学んでいるの？」の質問には、「ストックホルム校には今はいない。イエテボリ校には数人いる」

以上のコースの、条件はスウェーデン手話でコミュニケーションができる人。移民や難民でスウェー



デン手話ができないと無理。

でも今は、スウェーデン手話の少しできる難民で聴覚障害のある人 4 人もここで学んでいる。20 人を受け入れられるように市に申請したが 10 人分の予算しか確保できなかった。

「予算の法的根拠をもう少し教えて欲しい」と質問したら、「スウェーデンは 400 年戦争していない。相互に助けあう社会システムが残っている。でも、聴覚障害者の立場は強くないので、ずっと運動をがんばってきた。障害者団体が政治家に一生懸命訴えてきた。その結果です」

案内してくれたのは教員のギッタさん。彼女の手話通訳はクララさん。日本語通訳はスウェーデン在住 20 年、日本人補習学校の講師をしている上久保恵美子さんをお願いしている。同行したわたしのカミサンはろう学校に勤務したこともあり、視察後のギッタさんとの懇談では、スウェーデン手話と日本手話との同じや違いでしきりに感心していた。

彼女のお別れの言葉は「日本もがんばってね」
(菌部英夫)



■障害者が働くカフェで

お昼は、市内にもどり、ザバツベリィ病院に付随する公園にある**障害者が働くカフェ=カタリナヒューセ**ットでスープとパイのランチ。市から委託を受けた民間企業が運営しているようだ。

病院は、30 年ほど前までは精神病院の一つで、現在は高齢者の病院と障害のある高齢者（主に認知症）のための特別住宅になっている。緑の中で、カフェの仕事を終えた若者たちがボールと戯れていた。

